

令和3年度実施 模擬授業の課題
【中学校・国語】

1 出題範囲、領域等

中学校国語学習指導要領について、下記の条件を踏まえた模擬授業を行う。
指導事項並びに既習事項を踏まえた授業を行うこと。

【課題】

1. 第1学年「C読むこと」の領域で行うこと。また、指導に当たっては〔知識及び技能〕との関連を図ること。
2. 『少年の日の思い出』（ヘルマン・ヘッセ作 高橋健二訳）を本単元で扱う主たる教材とすること。
3. 模擬授業では「単元目標」に沿って、単元計画の終末部分を行うこと。
4. 本時の授業の展開部分を行うこと。展開40分のうち、6分間を行うこと。導入は終了したものとして始める。

【注意事項】

- ※① 模擬授業を行う時間は**6分間**です。（構想の時間はありません。）
- ※② 号令、出席確認、学習規律に関する指導、宿題の点検などは終了したものとして始めてください。
- ※③ 机間指導については、「ここで机間指導をします」と説明し、実際には行わないものとします。
- ※④ 面接官は生徒役ではありませんので、指名等は行わないでください。
- ※⑤ 板書に必要なチョークやマグネットを準備していますので必要に応じて使用してください。
- ※⑥ 教科書等は模擬授業では使用できません。
- ※⑦ 模擬授業終了後に、**模擬授業・教科に関する内容についての質疑応答を行います。**

2 当日持参するもの

授業を行う際に授業者が必要と考えた教具等については、事前に作成し、持ち込み可とする。

令和3年度実施 模擬授業の課題
【中学校・社会】

1 課題

公民的分野B「私たちと経済」(1)「市場の働きと経済」の単元の授業を実施します。
その1時間目の導入部分を各自で準備した資料を用いて授業を展開ください。その際、経済活動の意義について理解させるための「問い」を引き出すこと、その「問い」を生かした「めあて」を設定して模擬授業を実施ください。

【注意事項】

- ※① 模擬授業を行う時間は**5分間**です。(構想の時間はありません。)
- ※② 教室には生徒が30人いると想定して授業を行ってください。
- ※③ 号令、出席確認、学習規律に関する指導、宿題の点検などは終了したものとして始めてください。
- ※④ 机間指導については、『ここで机間指導をします』と説明だけして、実際には行わないものとします。
- ※⑤ 面接官は生徒役ではありませんので、指名等を行わないでください。
- ※⑥ 板書に必要なチョークを準備していますので必要に応じて使用してもかまいません。
- ※⑦ 模擬授業終了後に、**模擬授業・教科に関する内容についての質疑応答を行います。**

2 当日持参するもの

- ・ 掲示用資料を2枚以内で準備する。※資料は提示用資料として使用可
- ・ 資料は、A3で準備する。

※チョーク(白、黄、赤、青)、マグネット(8個)については、教室内に準備してあります。

令和3年度実施 模擬授業の課題
【中学・数学】

1 出題範囲、領域等

次の内容で、模擬授業を5分間行ってください。授業は導入から始めてください。

学年と領域 : 中学校2学年 D データの活用

本時のねらい : くじ引きが公平であるかどうかについて、その理由を確率に基づいて説明することができる。

評価の観点 : 思考・判断・表現

問題 : 4本のうち2本の当たりくじが入っているくじを2人の生徒が引くとき、引く順番によって当たりやすさに違いがあるか。

2 当日持参するもの

筆記用具

教科書等

※教室には一切の教材・道具類の持ち込みを禁止しますので、持参しなくても構いません。

※チョークについては、教室内に準備してあります。

※掲示用の問題文は教室内の黒板に準備してあります。

3 留意事項

- (1) 教室には生徒が30人いると想定して授業を行うこと。
- (2) 号令、出席確認、学習規律に関する指導、宿題の点検などは終了したものとすること。
- (3) 机間指導を行う場合は「ここで机間指導をします。」と発言し、実際には行わないこと。
- (4) 面接官は生徒役ではないこと。

令和3年度実施 模擬授業の課題
【中学校・理科】

1 出題範囲、領域等

中学校理科2学年の「だ液によるデンプンの変化を調べる」実験に関連する実践的指導力を問う。

(1) 授業の場面について

下記の実験を終え、実験結果を確認後の「考察」の場面とします。

実験 だ液によるデンプンの変化を調べる

(結果の表)

- だ液を採取する。
- だ液とデンプン溶液を混ぜ合わせる。
- 試験管をあたためる。
- ヨウ素液とベネジクト液を使ってデンプン溶液の変化を確認する。

	ヨウ素液の反応	ベネジクト液の反応
だ液をふくむ水を入れた試験管	変色なし	赤褐色の沈殿ができた
だ液をふくまない水を入れた試験管	青紫色に変色した	変化なし

※模擬授業を行う時間は5分です。

※生徒がいるものと想定して授業を行ってください。

※実験結果の確認を終えた後、個人及びグループでの考察を終え、全体で考察を練り合う場面から始めて下さい。

※面接官は生徒役ではありません。

(2) 黒板掲示

課題 「食物は、消化される過程で、どのように変化していくのだろうか？」

実験 だ液によるデンプンの変化

考察

結果

	ヨウ素液の反応	ベネジクト液の反応
A だ液をふくむ水を入れた試験管	変色なし	赤褐色の沈殿ができた
B だ液をふくまない水を入れた試験管	青紫色に変色した	変化なし

※結果の表に書き込んでもよい。

2 受験者が当日持参するもの

なし（教室には一切の教材・道具類の持ち込みを禁止する）

令和3年度実施 模擬授業の課題
【中学校・高等学校 音楽】

1 出題範囲、領域等

- ・表現領域「歌唱」の授業、第一次1時間 授業展開の導入部分の授業を行うこと。
- ・歌唱教材については、任意の楽曲とする。
- ・授業の冒頭において、既習曲を歌う活動を設定し、教師はピアノ伴奏（ピアノ演奏）を行うこと。なお、既習曲は「夢の世界を（芙龍明子 作詞／橋本祥路 作曲）」とし、1番のみ演奏する（リピート不要）。教師による範唱は不要。

【注意事項】

- ※① 全ての活動において、マスクを着用したまま実施すること。
- ※② 模擬授業の時間は**7分間**とする。（構想の時間はありません。）
- ※③ 教室には生徒が**30人**いると想定して授業を行うこと。
- ※④ 号令，出席確認，学習規律に関する指導，宿題の点検などは終了したのものとして始めること。
- ※⑤ 机間指導については、『ここで机間指導をします』と説明だけして、実際には行わないものとする。
- ※⑥ 面接官は生徒役ではないので、指名等は行わないこと。
- ※⑦ 板書用チョーク、掲示用マグネットは準備するので、必要に応じて利用してよい。
- ※⑧ **模擬授業終了後に、模擬授業・教科に関する内容についての質疑応答を行います。**

2 当日持参するもの

- ・各自必要と思われる教科書等資料
- ・掲示物（任意）

※チョークについては、教室内に準備してあります。

令和3年度実施 模擬授業の課題
【中学・高等学校・美術】

1 出題範囲、領域等

中学校学習指導要領 第6節 美術 第3章 第2学年及び第3学年の「B鑑賞」
「イ 生活や社会の中の美術の働きや美術文化についての見方や感じ方を深める活動を通して鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。」

2 課題

「生活や社会の中の美術の働き」についての鑑賞の授業です。
生活の中にある製品を見ながら話し合い活動を行います。（製品は手に持てる程度の実物を想定して行うこと）※⑧
その1時間目の導入の部分を行いなさい。ただし、対象学年は3学年とします。
（出席確認は終了したものとして、始めて下さい）

【注意事項】

- ※① 模擬授業を行う時間は**7分間**です。（構想の時間はありません。）
- ※② 教室には生徒が30人いると想定して授業を行ってください。
- ※③ 号令、出席確認、学習規律に関する指導、宿題の点検などは終了したものとして始めてください。
- ※④ 机間指導については、『ここで机間指導をします』と説明だけして、実際には行わないものとします。
- ※⑤ 面接官は生徒役ではありませんので、指名等を行わないでください。
- ※⑥ 板書に必要なチョークを準備していますので必要に応じて使用してもかまいません。
- ※⑦ 教科書等は模擬授業では使用できません。
- ※⑧ 製品を想定して模擬授業を行ってください。持参する必要はありません。
- ※⑨ 模擬授業終了後に、模擬授業・教科に関する内容についての質疑応答を行います。

3 当日持参するもの

なし

※チョークについては、教室内に準備してあります。

令和3年度実施 実技試験課題
【中学校・美術】

1 課題

- ・黒の鉛筆を用いて、デッサンを行う。
- ・陰影をつけた写実的な表現とする。
- ・モチーフが画面からはみ出るような構図にはしないこととする。
- ・画用紙は縦横どちらで使用してもよい。
- ・定規は使用しないこととする。
- ・以下の2つのモチーフを用いて、受験者自らが配置を行う。
円筒形で無色透明のガラス（ガラス製のコップ）1個
15 cm × 15 cm の無地・白色の布1枚

【注意事項】

- ※① 個人面接終了後に実技試験を実施します。（教室移動有）
- ※② 実技試験時間は40分です。

2 当日持参するもの

鉛筆、消しゴム

令和3年度実施 模擬授業（保健分野）の課題
【中学校・保健体育】

1 出題範囲、領域等

中学校学習指導要領（平成29年告示）の保健分野(3)傷害の防止（エ）応急手当の意義と実際についての内容で、授業終盤の「まとめ・振り返り」の授業を行う。（授業の導入・展開まで行ったものとして、授業を始めて下さい。）

※ 模擬授業の開始前に、「本時のめあて」を黒板に板書する。（担当から指示があります）

【注意事項】

- ※① 模擬授業を行う時間は、授業のめあてを黒板に板書した後、5分間です。
- ※② 教室には生徒が35人いると想定して授業を行ってください。
- ※③ 生徒の出席確認は終了したものとして始めてください。
- ※④ 机間指導については、『ここで机間指導をします』と説明だけして、実際には行わないものとします。
- ※⑤ 面接官は生徒役ではありませんので、指名等を行わないでください。
- ※⑥ 板書に必要なチョークを準備していますので必要に応じて使用してもかまいません。
- ※⑦ 模擬授業終了後に、模擬授業に関する内容についての質疑応答を行います。

2 当日、各自が持参して模擬授業で使用できるもの

中学校保健体育の教科書（出版社は問わない）。
但し、赤文字入りの指導書は除く。

令和3年度実施 模擬授業の課題
【中学校・技術】

1 出題範囲、領域等

設定学年：第1学年または第2学年

※1次合格者で学年を設定

内容：A材料と加工の技術、B生物育成の技術、Cエネルギー変換の技術のいずれかの「社会の発展と技術」について授業の「展開」の場面

※1次合格者で内容ABCのどこを取り上げるか設定

留意事項

①技術・家庭科の目標である「よりよい生活や持続可能な社会の構築」を意識した授業であること。

②第3学年の問題解決である「統合的な問題の解決」へつなげることを意識した授業であること。

③第3学年では「D(3)計測・制御に関するプログラミングによる問題解決」を中心に「統合的な問題の解決」を扱う予定。

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説技術・家庭編 23・24ページを参照

【注意事項】

※① 模擬授業を行う時間は**7分間**です。（構想の時間はありません。）

※② 教室には生徒が35人いると想定して授業を行ってください。

※③ 号令、出席確認、学習規律に関する指導、宿題の点検などは終了したものととして始めてください。

※④ 机間指導については、『ここで机間指導をします』と説明だけして、実際には行わないものとします。

※⑤ 面接官は生徒役ではありませんので、指名等を行わないでください。

※⑥ 板書に必要なチョークを準備していますので必要に応じて使用してもかまいません。

※⑦ 模擬授業終了後に、模擬授業・教科に関する内容についての質疑応答を行います。

2 当日持参するもの

教科書（出版社は問わない）

1時間の授業の流れがわかる資料（学習指導案（略案）4部、必要であれば説明用掲示資料 等）

※チョークについては、教室内に準備してあります。

令和3年度実施 模擬授業の課題
【中学校 家庭】

1 出題範囲、領域等

本日の授業は、学習指導要領（平成29年3月告示）教科「技術・家庭（家庭分野）」での
C 消費生活・環境「(1) 金銭の管理と購入」での授業です。

支払い方法の特徴について、クレジットカードによる三者間契約を取り上げ、その利点と問題点について、将来生徒が実際にクレジットカードを使用することをふまえて、活用できる知識を身につけるための授業を行うとした場合、本時のめあてを示した上で、本時の学習の振り返りを含めた全体のまとめ部分の授業を行ってください。

なお、支払い方法の種類と特徴（支払時期など）、クレジットカードの仕組みについては、既習事項とします。

【注意事項】

- ※① 準備時間1分間、模擬授業を行う時間は5分間です。（構想の時間はありません。）
- ※② 教室には生徒が30人いると想定して授業を行ってください。
- ※③ 号令、出席確認、学習規律に関する指導、宿題の点検などは終了したものとして始めてください。
- ※④ 机間指導については、『ここで机間指導をします』と説明だけして、実際には行わないものとします。
- ※⑤ 面接官は生徒役ではありませんので、指名等を行わないでください。
- ※⑥ 板書に必要なチョーク、黒板に掲示するためのマグネットを準備していますので必要に応じて使用してもかまいません。
- ※⑦ 教科書は持参できません。
- ※⑧ 模擬授業終了後に、模擬授業・教科に関する内容についての質疑応答を行います。

2 当日持参するもの

掲示物

※チョーク、マグネットは、教室内に準備してあります。

令和3年度実施 実技試験の課題
【中学校・家庭】

1 実技試験課題 (調理)

課 題	<p>調理実習「食材の切り方」において、次の7種類の切り方について、きゅうり1本を使って全ての切り方を習得できるよう、安全面、衛生面の指導も含めて生徒へ説明しながら実演を行ってください。</p> <p><切り方> 半月切り、いちょう切り、輪切り、斜め薄切り、乱切り、せん切り、拍子木切り</p> <p><条 件></p> <p>①きゅうりは無駄なく1本を全て使い切ること。 ②きゅうりのへたの処理と併せてあく抜き処理も行う。 ③切り方の順番は任意とする。 ④半月切り、いちょう切り、輪切り、斜め薄切りは、厚さ0.3～0.5 cmに切ること。 ⑤切り終えたきゅうりは、種類ごとにまとめて指定の皿に並べる。 ⑥調理台は一人1台とする（熱源は使用しない）。 ※切る枚数は任意とする。</p>
時 間	<p>準備（材料、調味料、調理器具の確認等）（2分間）</p> <p>実技試験（10分間）</p>

2. 当日試験教室に用意されているもの

<p>(1) きゅうり1本</p> <p>(2) 調味料、調理器具等 ※ () 内は個数</p> <p>①包丁(1) ②まな板(1) ③台拭き用布巾 ④食器用布巾</p> <p>⑤盛り付け用皿(1)</p>

3 当日持参する物

<p>受験票、エプロン、三角巾、手拭き</p>

【注意事項】

- ※①準備されている材料、調理器具以外の使用は認めない。
- ※②40人学級での実演を想定し、教師は師範台で説明しているとする。ただし、試験監督は生徒役ではありません。
- ※③食物の実技試験に続き、被服の実技試験を行う。

令和3年度実施 実技試験の課題
【中学校・家庭】

1 実技試験課題（被服）

課 題	<p>被服実習「手縫いの基礎」において、「まつり縫い（斜めまつり）」の縫い方について、全体説明では理解できない生徒がいます。その生徒に対して個別に説明していると仮定して、安全面の指導も含めて実演を行ってください。</p> <p><条件></p> <p>①準備時間に手縫い糸を針に通して玉結び、縫いしろ等のしるしつけをしておく。</p> <p>②布の一边はアイロンで三つ折りし（縫いしろ1cm、3cm）、まち針で固定する。</p> <p>③まつり縫いの長さは5cm以上とし、縫い目は表目約0.1センチ、裏目約0.8センチとする。</p> <p>④まつり縫いを始める位置は布端（左右どちらからでもよい）とする。</p> <p>※上記以外は任意とする</p>
時 間	<p>準備（手縫い針と糸の準備、しるしつけ）（2分間）</p> <p>実技試験（10分間）</p>

2. 当日試験教室に用意されているもの

①布（20cm角） ②手縫い針 ③手縫い糸 ④アイロン ⑤アイロン台

3 当日持参する物

受験票、ものさし、チャコ（チャコペン）、糸切りばさみ、まち針、針山

【注意事項】

- ※①準備されている材料以外の使用は認めない。
- ※②個別に指導していることを想定して行う。ただし、試験監督は生徒役ではありません。
- ※③食物の実技試験に続き、被服の実技試験を行う。

令和3年度実施 模擬授業の課題
【中学校・英語】

1 出題範囲、領域等

中学校3年生を対象とした授業を行います。以下の3点に留意して、授業を行って下さい。

- ①指導事項をおさえる。
- ②めあてを達成する言語活動を設定する。
- ③上記②を始めるまでの指導を行う。

指導事項は、「假定法過去 (If~.またはI wish~.))」です。

- ※①模擬授業を行う時間は7分間です。
- ※②生徒がいるものと想定して授業を行ってください。
- ※③生徒の出席確認は終了したものと始めてください。
- ※④机間指導の部分は、「ここで机間指導をします」と説明し、実際には行わないものとします。
- ※⑤面接官は生徒役ではありません。指名したりしないでください。
- ※⑥板書に必要なチョークを準備していますので必要に応じて使用してもかまいません。
- ※⑦模擬授業終了後に、模擬授業・教科に関する内容についての質疑応答を行います。

2 当日持参するもの

特になし

【中学校】

- ①模擬授業を行う時間は7分間です。
- ②準備・構想の時間はありません。
- ③生徒がいるものと想定して授業を行ってください。
- ④生徒の出席確認は終了したものと始めてください。
- ⑤机間指導の部分は、「ここで机間指導をします」と説明し、実際には行わないものとします。
- ⑥面接官は生徒役ではありません。指名したりしないでください。
- ⑦模擬授業を行った後、模擬授業・教科に関する内容について、質疑応答を日本語で行いますので、回答を簡潔に述べてください。
- ⑧日本語での質疑応答を行った後、英語でのやり取りをALTと行います。

3 当日の日程

- ①模擬授業（7分間）
- ②模擬授業について日本語での質疑応答（1分半程度）
- ③ALTとの英語でのやり取り（1分半程度）
- ④日本語での面接